

**<第8期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>**  
(自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	南種子町
------	------

取組目標・重点施策等		評価
健康づくりと自立支援, 介護予防・重度化防止の推進		B
該当カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。		
<input checked="" type="checkbox"/>	①介護予防の推進	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	③認知症施策の推進	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	②在宅医療・介護連携の推進	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	④地域包括ケアシステムの構築	<input type="checkbox"/>
<b>①現状と課題（取組を設定した背景）</b> ⇒見える化システム, 保険者シート等に基づく地域分析結果, 前年度自己評価を踏まえた課題等		
○健康づくりの推進 →各種検診における受診率の向上が課題である。 ○自立した生活の支援 →地区単位で地域支え合い協議会を設立し, 活動しているが, 地区によって取組にばらつきがある。 ○介護予防又は要介護状態の軽減若しくは悪化の防止 →コロナ禍により, 集まって行う地域介護予防活動ができなないが, 事業所の協力により総合事業サービス継続はできている。 ○介護予防・生活支援サービスの基盤整備 →見守り活動・ゴミ出し支援といった生活支援は, 地域支え合い協議会を中心として地域に根付いている。 ○在宅医療・介護の連携推進 →離島の過疎地域であることから, 地域の医療・介護資源には制約がある。在宅医療・介護連携会議により退院調整ルールが決まられており, 運用されている。		
<b>②第8期における具体的な取組</b> (①の課題を受けて8期計画で設定した取組及びR2自己評価を踏まえて見直した取組)		
○健康づくりの推進→健康相談, 特定検診・特定保健指導, 健康教育, 各種がん検診, 骨粗しょう症検診, 歯周疾患検診, 健康・体づくり事業の実施 ○自立した生活の支援 →地域支え合い協議会を中心とした地域支援体制の整備 ○介護予防又は要介護状態の軽減若しくは悪化の防止 →介護予防普及啓発(運動器の機能向上, フレイル予防, 口腔機能向上, 介護予防大会実施) →地域介護予防活動支援(高齢者サロン活動, 元気度アップ事業) →訪問型介護予防事業 ○介護予防・生活支援サービスの基盤整備 →生活支援体制整備(見守り活動, ゴミ出し支援) ○在宅医療・介護の連携推進 →地域の医療・介護支援の把握, 在宅医療・介護連携会議, 相談窓口の設置, 研修の実施		
<b>③目標（事業内容・数値目標）及び④実績（達成状況）</b>		
(②の取組について数値等で具体的に定めた目標)		
項目	数値目標	実績値
①健康相談件数	①一般相談 150件 重点相談 150件	①一般相談 93件 重点相談 167件
②運動器の機能向上	②回数 380件 延人数 3,000人	②回数 335件 延人数 2,190人
③高齢者サロン活動	③登録数 100件 活動数 3,000件	③登録数 96件 活動数 3,112件
<b>④自由記載（その他, 評価に用いた情報, その実績）</b>		
(空白)		
<b>⑤自己評価結果</b> (①～④を踏まえての考察・課題・今後の見直し等)		
数値目標の健康相談件数及び運動器の機能向上については, 前年度比微増ではあるが目標を下回ったが, 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け, 教室の中止等はなく, 計画通りに実施できた。 高齢者サロン活動数は, 目標値を上回ったが, リーダーの高齢化や後継者不足により, 活動を廃止するサロンもあり登録数は目標に届かなかった。 今後は, 各種健診受診率の向上を図り, 健康相談やフレイル予防の普及啓発により介護予防に努めることに加え, 住み慣れた地域でいつまでも生活できるよう, 各地域支え合い協議会を中心として, 生活支援体制整備の充実を目標に事業を展開していきたい。		

**<第8期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>**  
 (自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	南種子町
------	------

取組目標・重点施策等		評価
高齢者の尊厳を理念としたまちづくり		B
該当カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。		
<input type="checkbox"/>	①介護予防の推進	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	③認知症施策の推進	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	②在宅医療・介護連携の推進	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	④地域包括ケアシステムの構築	<input type="checkbox"/>
①現状と課題(取組を設定した背景) ⇒見える化システム, 保険者シート等に基づく地域分析結果, 前年度自己評価を踏まえた課題等		
○高齢者が安心して暮らせる環境整備 →保健師等の見守り支援により、体調に不安のある高齢者の見守りができている。防火・防災訓練など、コロナ禍により実施できていない活動がある。 ○生きがいづくりと社会参画 →高齢者の学習機会を確保するための取組が不足している。就業機会の確保としてシルバー人材センターの運営支援を行っている。 ○高齢者の尊厳の理念構築 →在宅介護における高齢者虐待の事例は現在のところないが、地域全体での支援により高齢者の尊厳を保持することが必要である。 ○認知症高齢者対策の推進 →町全体でのチームオレンジ結成にむけての活動推進が課題である。 ○感染症防止対策の推進 →新型コロナウイルス感染症については、介護施設でのクラスター発生ではなく、感染防止対策が各施設・事業所において徹底されているが、感染が拡大したときのための支援体制整備が課題である。		
②第8期における具体的な取組 (①の課題を受けて8期計画で設定した取組及びR2自己評価を踏まえて見直した取組)		
○高齢者が安心して暮らせる環境整備 ・防火・防災訓練の実施、緊急通報体制及び救出・避難誘導体制の充実、高齢者世帯を狙った犯罪の防止対策、高齢者ドライバーによる事故の防止及び交通手段の確保、保健師等の見守り支援 ○生きがいづくりと社会参画 ・高齢者学級等による生涯学習の推進、スポーツ・レクリエーション活動の振興、シルバー人材センターの運営支援 ○高齢者の尊厳の理念構築 ・地域支援事業における権利擁護 ○認知症高齢者対策の推進 ・「認知症ケアパス(認知症を考えるガイドブック)」の改正、認知症サポーター養成講座、認知症初期集中支援チーム配置、認知症対応医療機関との連携、④認知症サポーターチーム(オレンジチーム)の組織化推進、認知症カフェの開催 ○感染症防止対策の推進 ・感染防止対策の周知啓発、感染症に対する研修の充実、県や保健所、協力医療機関等と連携した地域での感染予防対策や支援体制整備		
③目標(事業内容・数値目標)及び④実績(達成状況)		
(②の取組について数値等で具体的に定めた目標)		
項 目	数値目標	実績値
①高齢者の見守り支援	①対象数 50 回数 1,500回	①対象数 30 回数 1,037回
②認知症初期集中支援チーム	②支援実人数 4人 訪問延人数 20回 チーム員会議の開催数 4回	②支援実人数 4人 訪問延人数 14回 チーム員会議の開催数 5回
③認知症カフェの開催	③開催日数 50回 延人数 500人	③開催日数 14回 延人数 122人
④自由記載(その他, 評価に用いた情報, その実績)		
⑤自己評価結果 (①～④を踏まえての考察・課題・今後の見直し等)		
高齢者の見守り支援事業は目標値を下回り、昨年度よりも微減した。対象者が介護保険サービスの利用につながり、全体的に対象者が減少したことが要因である。 認知症初期集中支援チームの活動はほぼ目標通りであり、早期診断、早期支援を要するケースがあった。 認知症カフェは昨年度と比較して開催数、参加延べ人数共に大幅に増加したが、目標数には及ばなかった。現在は、認知症カフェを包括主導で1カ所で開催しているため、今後は各地区単位での認知症カフェの開催も検討しながら、チームオレンジの整備にも力を入れたい。		

**<第8期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>**  
 (自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	南種子町
------	------

取組目標・重点施策等		評価
高齢者を支える仕組みと体制づくりとサービスの充実		<b>C</b>
該当カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。		
<input type="checkbox"/>	①介護予防の推進	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	③認知症施策の推進	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	②在宅医療・介護連携の推進	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	④地域包括ケアシステムの構築	<input type="checkbox"/>
<b>①現状と課題（取組を設定した背景）</b> ⇒見える化システム, 保険者シート等に基づく地域分析結果, 前年度自己評価を踏まえた課題等		
○地域支援事業の推進 ○高齢者福祉サービスの充実 →介護予防・生活支援サービス事業において、介護サービス事業者以外の多様な主体によるサービスの充実が進んでいない。		
○生きがいつくりの推進 →老人クラブ活動は各地区において活発に行われているが、未加入者の増加など参加者の偏りが課題である。		
○高齢者の居住安定に係る施策との連携 →地域性から持ち家率が高いため、住宅のバリアフリー化が課題である。		
<b>②第8期における具体的な取組</b> (①の課題を受けて8期計画で設定した取組及びR2自己評価を踏まえて見直した取組)		
○地域支援事業の推進 ○高齢者福祉サービスの充実 ・配食サービス事業、緊急通報装置貸与事業、敬老金支給事業		
○生きがいつくりの推進 ・老人クラブ活動の支援、交流の場・機会の拡充、まちづくりへの高齢者の参加を促進・支援		
○高齢者の居住安定に係る施策との連携 ○有料老人ホームとサービス付き高齢者住宅に係る情報連携強化		
<b>③目標（事業内容・数値目標）及び④実績（達成状況）</b>		
(②の取組について数値等で具体的に定めた目標)		
項 目	数値目標	実績値
①配食サービス(高齢者・障害者)	①延利用者数 200名	①延利用者数 101名
②緊急通報装置貸与	②貸与台数 15台	②貸与台数 15台
③	③	③
<b>④自由記載（その他、評価に用いた情報、その実績）</b>		
(空白欄)		
<b>⑤自己評価結果</b> (①～④を踏まえての考察・課題・今後の見直し等)		
地域支援事業については、多様な主体によるサービスの提供体制を構築することが難しい。 本地域では、離島過疎地域・人口減少・少子高齢化といった状況からNPO法人やボランティアのような組織よりも公民館や地縁組織、民生委員といった地域に根差した組織と地域支援事業の親和性が高いことから、これらの組織を活用した地域包括ケアシステムの構築を図る必要がある。		

**<第8期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>**  
(自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	南種子町
------	------

取組目標・重点施策等		評価
介護保険サービスの基盤整備		C
該当カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。		
<input type="checkbox"/>	①介護予防の推進	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	③認知症施策の推進	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	②在宅医療・介護連携の推進	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	④地域包括ケアシステムの構築	<input type="checkbox"/>
<b>①現状と課題（取組を設定した背景）</b> ⇒見える化システム, 保険者シート等に基づく地域分析結果, 前年度自己評価を踏まえた課題等		
○施設サービス提供体制の充実 →認定率が全国平均に比べかなり低い一方で在宅介護サービス費の1人あたり給付月額が全国平均を上回っており、施設サービスの不足により、在宅介護サービスの過剰な利用に繋がっていないか検証が必要である。 ○介護給付対象サービスの円滑な提供 →定期的なケアマネジメント研修会や地域ケア個別会議の開催により適正なケアマネジメントに取り組んでいるが、居宅介護支援専門員の抱える要介護者数が多いため、さらなる支援が必要である。 ○地域密着型サービスの充実 →地域密着型サービス運営委員会の設置により、事業者の新規指定、更新の際には事業者の適正を諮っている。 ○地域包括支援センターの機能強化 →保健師や看護師、リハビリ職など専門職が不足しており、充実した人員体制の構築が課題である。 ○介護給付の適正化の取組 ○低所得者支援と介護者負担軽減		
<b>②第8期における具体的な取組</b> (①の課題を受けて8期計画で設定した取組及びR2自己評価を踏まえて見直した取組)		
○施設サービス提供体制の充実 ○介護給付対象サービスの円滑な提供 ・ケアマネジメント研修会、事例検討会の定期的な実施、介護保険制度、介護保険サービス等の普及啓発 ○地域密着型サービスの充実 ・地域密着型サービス運営委員会の設置 ○地域包括支援センターの機能強化 ・総合相談支援体制の整備、地域ケア会議の活用、地域包括支援センター運営協議会の設置 ○介護給付の適正化の取組 ○低所得者支援と介護者負担軽減		
<b>③目標（事業内容・数値目標）及び④実績（達成状況）</b>		
(②の取組について数値等で具体的に定めた目標)		
項 目	数値目標	実績値
①総合相談支援事業	①相談件数 150件	①相談件数 79件
②地域ケア個別会議	②6回5例	②9回7例
③	③	③
<b>④自由記載（その他、評価に用いた情報、その実績）</b>		
(空白欄)		
<b>⑤自己評価結果</b> (①～④を踏まえての考察・課題・今後の見直し等)		
待機入所者の問題や在宅介護サービス給付費が全国平均を上回るなど、施設サービス整備の必要性を感じるが、介護人材の確保が課題となっている。地域包括支援センターの機能強化についても専門職を確保することが難しく、現行スタッフの努力で事業を行っている状況であり、地域全体での介護人材確保の取組を行う必要がある。		